

ほんね たてまえ しゅうしょくかつどう
本音と建前の就職活動

こうたろうくん しがつ よこはまだいがく よねんせい
高太郎君は、この4月に、横浜大学の4年生になったばかりです。

さいしゅうがくねん とたん じたく かず ゆうびんぶつ こうたろう
最終学年になった途端に、自宅にはおびただしい数の郵便物が、高太郎

くんあて まいにち く かいしゃ おく
君宛に毎日のように来るようになりました。それらはすべて、会社が送

かいしゃあんない りゆうつう きんゆう しょうけん
ってくる会社案内です。メーカー、サービス、流通、金融、証券など

ぶんや かいしゃ つぎつぎ おく こうたろうくん
ありとあらゆる分野の会社が次々と送ってくるのです。高太郎君はそれ

ぜんぶかいふう ひつよう しゅしゃせんたく
らを全部開封するわけではありません。必要なものだけを取捨選択してあ

す
とはそのまま捨

ててしまいます。

こうたろうくん がくせいせいかつ さんねんかん いっぺん
高太郎君の学生生活はそれまでの3年間とは一変しました。それまで

かつどう きたく おそ
はクラブ活動やアルバイトのため帰宅するのは遅かったのですが、クラブ

やす はや かえ よるおそ
やバイトはしばらく休むことにして早く帰るようになり、夜遅くまで

かいしゃあんない けんとう りれきしょ か
会社案内を検討したり、ていねいに履歴書を書いたり、

しゅうしょくしけんもんだいしゅう ひら おお こうたろうくん
就職試験問題集を開いていることが多くなりました。高太郎君は

しゅうしょくかつどう きせつ むか
就職活動の季節を迎えたのです。

こうたろうくん りはつてん い すこ なが かみ みじか
高太郎君は理髪店に行き、それまで少し長めであった髪を短めにし

しんちょう き しゃしんかん い しゃしんかん
てもらったあと、新調したスーツを着て、写真館に行きました。写真館

ごしゅじん こうたろうくん ちち ゆうじん なかはら こうたろうくん あか
の御主人は高太郎君の父の友人で中原さんといい、高太郎君は赤ちゃ

ころ なかはら おりおり きねんしゃしん と
んの頃から、中原さんに折々の記念写真を撮ってもらってきました。お

みやまい はつげつく にゆうがく そつぎょう せいじんしき こうたろうくん しゃしんかん
宮参り、初節句、入学、卒業、成人式などです。高太郎君が写真館

はい なかはら しゅうしょく こうたろうくん い
に入ると、中原さんが「おや、もう就職か」と高太郎君がなにも言

こえ なかはら こうたろうくん ふくそう ひとめみ
わないうちに声をかけました。中原さんは、高太郎君の服装を一目見た

けんとう こうたろうくん ふくそう
だけですぐ見当がついたのです。高太郎君の服装はいわゆるリクルートス

きぎょう ほうもん さい りっぱ くら ぶなん
ーツとって、企業を訪問する際の、立派でもなく暗くもない無難な

ふくそう こうたろうくん りれきしょ しゃしん と
服装だったのです。高太郎君は履歴書にはる写真を撮りにきたのでした。

なんまいや なかはら き まい ねが
「何枚焼く？」と中原さんが聞いたので、「とりあえず10枚お願いしま

こうたろうくん こた う なかはら
す」と高太郎君が答えると、「そんなに受けなきゃだめかい？」と中原

すこ おどろ こうたろうくん う てしじょう
さんは少し驚いたようにいいました。高太郎君は、いまは売り手市場

がくせい ふくすう かいしゃ ないてい かくかいしゃ じょうけん
のため、学生は複数の会社の内定をもらっておいて、各会社の条件

ひかく きぼう かいしゃ えら せんたく はば
を比較して希望の会社を選ぶことができるので、選択の幅をできるだ

ひろ ほう ゆうり せつめい なかはら
け広げておいた方が有利であると説明しました。中原さんは「おじさん

ころ かんぜん か てしじょう じだい か い
の頃は、完全な買い手市場だったな。時代は変わったもんだ」と言

のぞ かいしゃ にゆうしゃ はげ
い、望みの会社に入社できるよう励ましてくれました。

あおたが ことば こめ かん ことば
「青田買い」という言葉があります。これはもともと米に関する言葉

いね みせいじゆく あお か つ ぎょうしゃ しょうらい しゅうかく み こ
で、稲が未成熟の青いうちに、買い付け業者が将来の収穫を見越

して買^か取^とる^とこと^とです。これ^こが^が転^{てん}じ^じて^て就^{しゅう}職^{しょく}戦^{せん}線^{せん}を^を言^い表^{あらわ}す^すの^のに^に使^{つか}
わ^われる^るよ^よう^うに^にな^なり^りま^まし^した^た。つ^つま^まり^り、大^だ学^{がく}4^に年^{ねん}生^{せい}の^の卒^{そつ}業^{ぎょう}の^の見^み込^こみ^みも^もた^たた^たない^い
な^なつ^つや^やす^すま^まえ^えき^きぎ^ぎょう^{ょう}そ^そつ^つぎ^ぎょう^{ょう}み^みこ^こさい^{さい}よう^{よう}き^きい^いみ^み
夏^な休^つみ^み前^まに^に、企^き業^{ぎょう}が^が卒^{そつ}業^{ぎょう}を^を見^み越^こして^{して}採^{さい}用^{よう}を^を決^きめ^めて^てし^しま^まう^うこ^この^の意^い味^み
で^で使^{つか}わ^われ^れて^てい^いま^ます^す。

なぜ^なぜ^ぜこ^この^のよ^よう^うな^なこ^こと^とが^が行^{おこな}わ^われる^るの^ので^でし^しょう^う。そ^その^の理^り由^{ゆう}は^は、企^き業^{ぎょう}は^はそ^その^の
企^き業^{ぎょう}に^にと^とつ^つて^て望^{のぞ}ま^ましい^い人^{じん}材^{ざい}を^を、他^{ほか}の^の企^き業^{ぎょう}に^に採^{さい}用^{よう}さ^され^れない^いう^うち^ちに^に、1^{いち}日^{にち}
も^も早^{はや}く^く確^{かく}保^ほす^すた^たい^いか^から^らで^です^す。し^しか^かし^し、企^き業^{ぎょう}同^{どう}士^しが^が優^{ゆう}秀^{しゅう}な^な人^{じん}材^{ざい}を^をよ^より^り早^{はや}
く^くよ^より^り多^{おほ}く^く採^{さい}用^{よう}し^しょう^うと^と競^{きょう}争^{そう}す^すれ^れば^ばす^する^るほ^ほど^ど、そ^その^の時^じ期^きは^は早^{はや}ま^まる^る傾^{けい}向^{こう}
が^があ^あり^り、青^あ田^{おた}買^がい^いは^は大^だ学^{がく}教^{きょう}育^{いく}を^を混^{こん}乱^{らん}さ^させ^せか^かね^ねま^ません^ん。そ^その^のた^ため^め、文^{もん}部^ぶ省^{しょう}
(大^だ学^{がく}側^{がわ})と^と企^き業^{ぎょう}と^との^の間^あの^の就^{しゅう}職^{しょく}協^{きょう}定^{てい}に^によ^より^り、年^{ねん}に^によ^よつ^つて^て変^{へん}動^{どう}は^はあ^あ
る^るも^もの^の、企^き業^{ぎょう}の^の採^{さい}用^{よう}選^{せん}考^{こう}開^{かい}始^しは^はだ^だい^いたい^い8^{はち}月^{がつ}か^から^ら、採^{さい}用^{よう}内^{ない}定^{てい}開^{かい}始^しは^は10^{じゅう}月^{がつ}
か^から^らと^と決^きめ^めら^られ^れて^てい^いま^ます^す。し^しか^かし^しな^なが^がら^らこ^これ^れは^は建^た前^{まえ}で^で、本^{ほん}音^ねの^のと^とこ^ころ^ろで^では^は、
企^き業^{ぎょう}も^も学^{がく}生^{せい}も^も活^{かつ}動^{どう}を^を始^はめ^めて^てい^いる^るの^ので^です^す。5^ご月^{がつ}だ^だと^とい^いう^うの^のに^に、高^{こう}太^た郎^{らう}君^{くん}は^は
も^もう^う複^{ふく}数^{すう}の^の会^{かい}社^{しゃ}か^から^ら内^{ない}定^{てい}を^をも^もら^らい^いま^まし^した^た。し^しか^かし^しそ^それ^れで^で就^{しゅう}職^{しょく}活^{かつ}動^{どう}を^をや^や
め^める^るつ^つも^もり^りは^はな^ない^いよ^よう^うで^です^す。

今日^{きょう}も^もま^また^た就^{しゅう}職^{しょく}情^{じょう}報^{ほう}誌^しが^がど^どっ^っさ^さり^り送^{おく}ら^られ^れて^てき^きま^まし^した^た。高^{こう}太^た郎^{らう}君^{くん}は^はそ^そ
れ^れら^らを^を子^し細^{さい}に^に検^{けん}討^{とう}し^し、友^{ゆう}人^{じん}と^と電^{でん}話^わで^で情^{じょう}報^{ほう}を^を交^{こう}換^{かん}し^しあ^あい^い、次^{つぎ}に^に訪^{ほう}問^{もん}
す^する^る会^{かい}社^{しゃ}を^をど^どこ^こに^にす^する^るか^か思^し案^{あん}し^して^てい^いま^ます^す。就^{しゅう}職^{しょく}活^{かつ}動^{どう}は^はす^すで^でに^に本^{ほん}番^{ばん}に^に入^{はい}
っ^って^てい^いる^るの^の

です。

『日本語中級読解進階』より